

公開講演会

メタバースが変える未来のマネー

2025年7月15日(火)

18:00 ~ 20:00

立教大学池袋キャンパス8号館1階

8101教室

参加無料、申込不要

テーマ①：メタバースの今と未来～経済活動の観点から～



増田 雅史

弁護士
一橋大学大学院特任教授



三宅 陽一郎

立教大学大学院
人工知能科学研究科
特任教授



内山 泰伸

立教大学大学院
人工知能科学研究科
教授

企画・進行



前田 順一郎

立教大学大学院
人工知能科学研究科
客員教授

テーマ②：未来のマネーを考える



牛田 遼介

金融庁総合政策局
フィンテック参事官室
イノベーション推進室長
兼チーフ・フィンテック・オフィサー



鳩貝 淳一郎

日本銀行 決済機構局
FinTech副センター長
デジタル通貨検証グループ長

(注) 増田雅史先生はテーマ②にも参加予定です。

講演会の詳細

生成AIの発展によりビジネス上においてもビッグデータを活用する経済活動が加速している。メタバース空間上では、生成AIが必要とするあらゆるビッグデータを瞬時に記録可能である。こうした背景から、生成AIに次ぐ次世代の技術トレンドとしてメタバースがあらためて注目されることが予測される。未来のメタバース空間上では、あらゆる情報に生成AIの活用が可能となり、多言語のリアルタイムコミュニケーションや記録・要約も瞬時に可能になるだろう。そこで重要になるものが「マネー」である。現在、経済取引は「マネー」が媒介としてなされているが、すべての経済取引がプラットフォーム上で完結するようになれば「マネー」の概念は根本から変容する可能性がある。

立教大学大学院人工知能科学研究科では、前田順一郎客員教授がフィンテック・金融会計DXに関する研究を進める一方で、三宅陽一郎特任教授らがメタバースに関する実装の研究を行ってきた。講演会では、各々の研究成果を融合させるとともに、当該分野に関してリーダーシップを発揮する当局、中央銀行の担当者及び法律専門家が一堂に会し、パネルディスカッション形式により、メタバースがどのように「マネー」の価値を変容させるかについて語ることで、本議論を昇華させることを企図するものである。

主催：立教大学大学院人工知能科学研究科
応用人工知能イノベーションセンター (edcn-ai@rikkyo.ac.jp)

共催：立教大学経済学部